

HAYASHIYA
Shojaku

二日連続口演

2018



林

家

正

雀

七月二十八日(土)

午後六時開演

源平盛衰記

木乃伊取り

芝浜

七月二十九日(日)

午後二時開演

開口一番 林家彦星

正雀三席申します

目黒の秋刀魚

穴泥

三遊亭圓朝作

鱒沢 | 道具入り

下座 森吉あき

歯切れのいい人情味あふれる語り口で
新潟の観客の心をとらえた正雀師匠の
今夏も二日連続の口演です。

一日目は、お馴染み壇の浦の段を

地新で語る「源平盛衰記」

吉原の賑わいを描く「木乃伊取り」

人情話の名作「芝浜」

二日目は、落語を知らない人でも落ちの

フレーズだけは知っている「目黒の秋刀魚」

林家彦六の十八番のひとつ「穴泥」

そしてトリにはスリリングな「鱒沢」

を道具入りで演じます。

お楽しみに！

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

噺の手引き

林家正雀

源平盛衰記

噺のうちで、地噺と呼ばれているものがあります。演者の地の語りで噺を運ぶのですが、その中の一つが「源平」です。お馴染みの壇の浦の扇の的を中心に申します。

木乃伊(みいら)取り

「ミイラ取りがミイラになる」とは、人を捜しに行った者がそのまま帰って来なくなるのだそうで、その言葉から思い付いて出来た噺だと思います。登場人物が多いのですが、最後に出る清造が主人公という構成が面白く、作者は実に粋な人だと思われます。

芝浜

三遊亭圓朝師匠の三題噺で財布、芝浜、酔払いの題をお客に貰い、そこで作った噺とされています。当初は音曲噺の感が強かったそうですが、それをこってりとした人情噺に作り直したのが桂三木助師匠(先々代)といわれています。働く気を失くした亭主、それを励ます女房、今に続くテーマの噺です。

目黒の秋刀魚(さんま)

落語をまるで知らない人でも「目黒の秋刀魚」のフレーズは知っているところは「まんじゅう怖い」と同様です。目黒は将軍が鷹狩りに出掛けたところだそうですので、実際にあったことを噺にしたとされています。

穴泥(あなどろ)

師匠彦六の十八番の一つです。お金に因って盗みに入るという深刻な噺ですが、主人公が善良で、その主人公を捕まえに来る平さんという男がひょうきん者に描かれているので、実に楽しい噺になっています。

蜘蛛(か)かざわ

圓朝師匠の三題噺です。玉子酒、小室山の護符、鉄砲の三題とされています。別名「蜘蛛雪の夜話」とも呼ばれていますが、その名の通り、雪の甲州の山を舞台に新助、お熊、伝三郎の三人の人間模様が描かれますが、今回は、道具入りで申します。お楽しみに。

申し込み 電話・ファックス 025-222-2676 (砂丘館)

または E-mail sakyukan@bz03.plala.or.jp へ

*ファックス、E-mail でお申込の場合は

連絡先(電話番号)、人数を併記してください。

申し込み開始日 6月20日



林家正雀(はやしや しんまうぢやく)

落語家。
一九五一年一月二日山梨県生まれ。
七四年に八代目林家正蔵(のち彦六)に入門し、前座名繁蔵。七八年正雀で二ツ目。
八三年同名のまま真打。

林家正雀 二日連続口演 2018

会場 砂丘館 居間・座敷・茶の間

定員 各日とも 50名

参加料 各回 3,500円(小・中学生2,000円)

2日通し 6,000円(小・中学生3,500円)

主催 砂丘館

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。
●新潟駅からのバス: 浜浦町線 C2系統 又は 観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分
●新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

あられ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

ISHIKAWA

新新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会